

地域経済分析システム(RESAS) 活用の手引き・事例集



彩の国  埼玉県

はじめに

地域経済分析システム（以下 RESAS:リーサス）は、内閣府まち・ひと・しごと創生本部事務局が「地方創生における情報支援の柱」として位置づけ、インターネット上で誰でも利用できるシステムとして平成 27 年 4 月に公開されました。

RESAS は、人口動態、人やモノの動き、産業構造などに関する官民のビッグデータを集約し、わかりやすく可視化するシステムであり、地域課題を発見し、解決していく方策を考える際に、有効なツールとして期待されています。

そこで、埼玉県は国の交付金を活用し、平成 28 年度に RESAS 普及促進事業を実施しました。本事業では、行政、教育機関、商工団体、NPO 等を対象に、RESAS の機能、活用事例などを紹介し、実際に操作をしてもらいながら進める出前講座や、地域の課題解決策の提言につなげる分析支援を実施し、地域の活性化に向けた取組を後押ししました。

本活用手引き・事例集は、RESAS 普及促進事業を通じて得られた RESAS の活用方法や事例をまとめたものです。地域課題の解決や活性化に向けた取組の一助となり、多くの皆様に御活用いただければ幸いです。

目次

1 . 地域経済分析システム普及支援事業について	p. 1
2 . RESAS 活用事例	
(1) 地域の魅力再発見	p. 3
狭山市「狭山市の魅力づくり事業 ～若者の力とセンスで狭山に活力を!市長に事業提案してみよう!～」	
(2) 地域資源を有効活用した観光振興	p. 5
東京国際大学「川越の観光振興」	
(3) 地域特性を踏まえた人口減少対策	p. 7
芝浦工業大学「限界集落化メカニズムの特定」	
(4) 4市1町の地域課題発見と振興策検討	p. 9
聖学院大学「定住促進に向けて」	
(5) 地域産業振興に向けた地域経済把握	p.11
商工団体向け研修資料から	
(6) RESAS×カフェで地域を考える	p.13
3 . RESAS に関するその他参考資料	p.14

地域経済分析システム普及支援事業について

(1) 研修・分析支援の実施

埼玉県は、平成 28 年度、RESAS 普及促進を目指して、延べ 61 回、約 1,500 名に対し、RESAS の機能、活用事例などを紹介し、基本的な操作研修や地域課題の発見や施策提案のための分析支援など参加者のニーズや課題に応じて実施しました。

研修・分析支援を通じて、客観的なデータに基づき、地域の現状（強み・弱み）や将来像を把握することの重要性や他主体間で議論する際に、RESAS を共通言語として活用することの有効性について理解促進を図った。

	内容	実施回数	参加人数	研修風景
RESAS 研修事業	県職員 市町村職員	17 回 (15 地域・団体)	465 名	
	県内 大学・高校等	6 回 (6 校)	120 名	
RESAS 普及促進 事業	商工団体・ NPO・ 市民団体等	15 回 (15 団体)	432 名	
	県職員 市町村職員	7 回 (6 団体)	222 名	
分析支援	県内 大学・高校等	7 回 (3 団体)	64 名	
	商工団体・ NPO・ 市民団体等	9 回 (8 団体)	164 名	
延べ 61 回、1,467 名				

(2) 活用事例発表会の開催

平成 29 年 2 月には、県内の行政職員、大学関係者、商工団体、NPO 等を対象に活用事例発表会を開催しました。基調講演や事例発表を通じて、RESAS の活用方法に関する関心が高まり、今後の活用の可能性を広げました。また、交流会を通じ、地域活性化に向け、各主体の連携を後押ししました。

< 開催概要 >

日時 平成 29 年 2 月 6 日 14:00～16:00

場所 ホテルプリランテ武蔵野

参加者 90 名

< 基調講演 >

- ・『大学における RESAS の活用事例について』
松浦 義昭 氏（金沢大学国際基幹教育院講師 内閣府 RESAS 専門委員）
- ・『RESAS を共通言語とした地域づくりの事例について』
竹内 千寿恵 氏（NPO 法人 MYstyle@代表理事）

< 事例発表 >

- ・『平成 28 年市内大学連携事業「狭山市の魅力づくり事業」』
狭山市 総合政策部 政策企画課
- ・『川越の観光振興』
東京国際大学 商学部ゼミ

< 交流会 >

事例発表団体や連携希望団体のブースを設置し、発表会参加者との意見交換・交流を図りました。また、参加者が気軽に RESAS に触れることができるブースも設置し、操作・分析方法等に関する相談に応えました。



地域の魅力再発見

「狭山市の魅力づくり事業」～若者の力とセンスで狭山に活力を!市長に事業提案してみよう!～

■ 取組内容

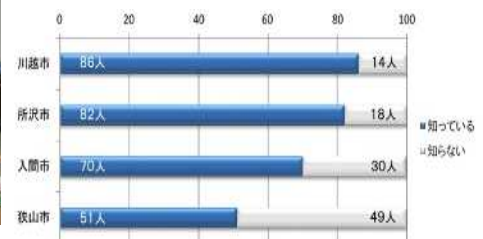
- ・ 狭山市は平成 28 年度市内 4 大学連携事業として、大学生が狭山青年会議所の協力のもと若者目線で観光や移住・就職などの若い世代を呼び込む取組を企画・立案し、市長に提案をする事業を実施した。
- ・ 分析過程で RESAS の人口マップから人口動向を把握するとともに、観光マップ等から休日の市内滞在人口が平日より少ないことから「休日に訪れない街」という課題を発見した。観光マップ、農林水産業マップから狭山市ならではの地域の魅力を再発見し、若者のセンスと嗜好を加えることで魅力を高める具体的な魅力発信事業を立案した。

■ RESAS 活用のポイント

- ・ 行政、大学、青年会議所の連携では、RESAS が共有言語となり、関係者の勘・経験・思い込みを取り払い、データに基づく論理的な議論が進み、地域課題の共有や合意形成が図られ、課題解決策の具体的な検討がなされた。
- ・ RESAS による定量分析ならびにアンケート調査等による定性分析と若者の発想が効果的に機能し、説得力ある「まちづくりの新たな取組み」として提言された。その結果、狭山市では提案内容の事業化に向けた具体的な検討が進んでいる。



【大学生アンケート：狭山市の知名度調査】



【実証実験：SNS を用いた飲食店の情報発信】



S.E.T(狭山発掘隊)
@E38ma

狭山巡りしたよ～
#サンセリテ#種類たくさん#有名
#豚丼きみお#お手頃価格#店主パワフル#美味しかった#TeaTownSayama



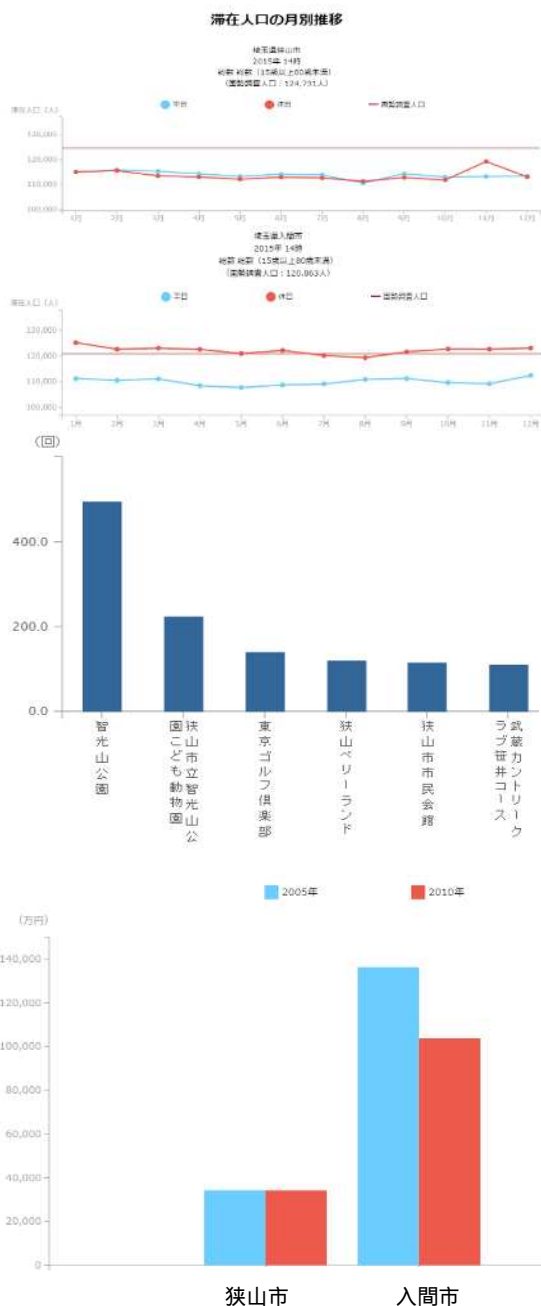
2016/09/15 23:58

【RESAS 活用メモ】 複数のマップを組み合わせて分析しましょう

例えば、「産業構造マップ」で地域製品の強みを把握するとともに、「観光マップ」、「まちづくりマップ」により、地域内の人の移動や集積状況を捉えることで、イベント時のマーケティング施策を検討することも有効になります。



■ RESAS の活用プロセス



狭山市の滞在人口を把握する

【まちづくりマップ > 滞在人口率 > グラフを表示】

- ✓ 狭山市の滞在人口は、休日と比較し、平日の方が多く傾向にある。狭山市と人口規模が同規模の入間市では平日は狭山市と同程度だが、休日の滞在人口は多い傾向にある。

狭山市は休日に人があまり訪れないまちであると想定される。

狭山市の観光資源を把握する

【観光マップ > 目的地分析 > 目的地検索ランキング
(休日、自動車)】

- ✓ 智光山公園・こども動物園が多く検索されており、地域内で集客力が期待できる施設となっている。ゴルフ場のほか狭山ペリーランドも比較的多く検索されている。

自然と調和した環境や施設に地域の魅力があると想定される。

狭山市の地域産品の現状を把握する

【産業構造マップ > 農産物販売額
工芸農作物(お茶など)】

- ✓ シンボリックかつ訴求力ある地域産品とされる『狭山茶』について、狭山市の販売額は4億円弱で、入間市の3分の1程度になっている。

『狭山茶』を活用した魅力発信事業を展開することで、効果的に認知度を高めることができ、地場産業の振興へつながる。

■ 得られた結論 (事業提案概要)

狭山茶を活用した 知名度向上

- 「狭山茶+スイーツ」をコンセプトに、狭山市の認知度の向上を図る。
- 「スイーツを狭山茶とともに楽しむ」だけでなく、「お菓子のデコレーション」などの体験を加えることで、「モノ消費」から「コト消費」への喚起を行う。狭山茶の産業振興にも寄与する。

Twitter & Instagram を 活用した 情報発信事業

- 「智光山公園」や「稲荷山公園」、「入間川」、「狭山茶」、「七夕まつり」など、自然と歴史が調和したまち・狭山の「素敵な風景」や「素敵なお店」に大学生が改めて気づき、自ら発信することで、若者へ効果的に訴求し、情報拡散を進める。

地域資源を有効活用した観光振興

東京国際大学「川越の観光振興」

■ 取組内容

- ・ 東京国際大学商学部ゼミは、「川越の観光振興」をテーマに今後の観光振興の方向性について大学内の演習発表会で提案した。
- ・ 分析過程で RESAS の観光マップ等を活用し、施設ごとに観光客数の季節変動が大きい課題を発見した。季節変動を受けず安定的な誘客を図る観光ルートを発表した。

■ RESAS 活用のポイント

- ・ RESAS の観光マップ等を活用することで、公的な統計データでは見えなかった観光客の属性や人の流れを捉えることができ、川越市の観光の現状を把握するとともに、施設ごとに観光客数の季節変動が大きいといった観光振興上の課題の発見につながった。
- ・ RESAS で立てた仮説を、実際に集客施設に出向きインタビューや意見交換を通して検証し、より具体的な提案にブラッシュアップした。
- ・ 本取組を契機として、地元関係者と大学との連携が深まった。



【課題・解決の方向性の検討】



【提案発表(演習発表大会)】



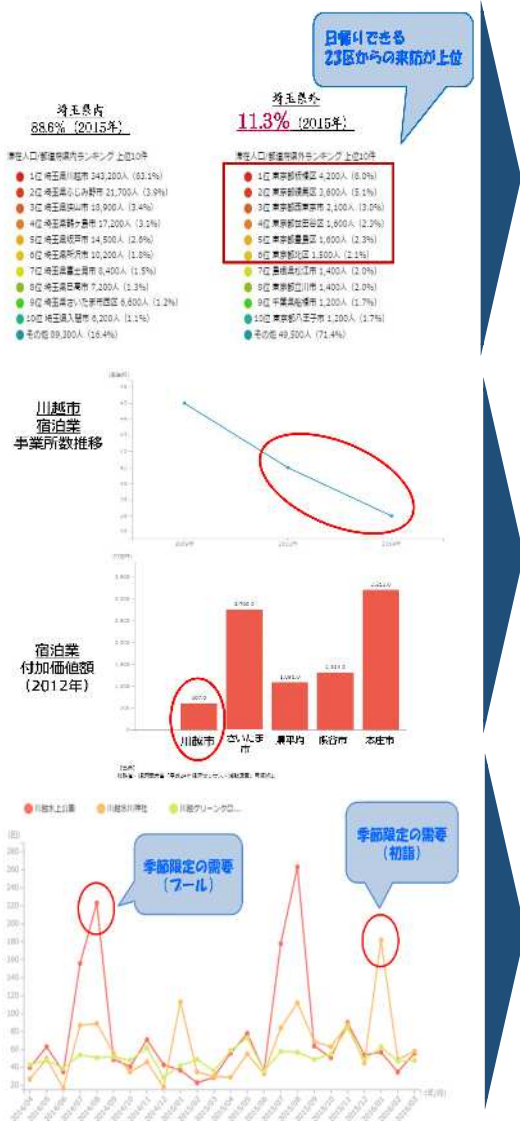
【地元関係者との意見交換
(川越氷川会館)】

【RESAS 活用メモ】 訪日外国人に関する観光データも分析できます

RESAS の観光マップには、国籍別や訪問目的別の外国人訪問者数（都道府県単位）がわかる「外国人訪問分析」や、月別の昼間・夜間の外国人滞在人数がわかる「外国人滞在分析」、外国人の滞在状況が地図上に可視化される「外国人メッシュ」などの機能もあり、インバウンドの取組に向けた検討時にも活用できます。



RESAS の活用プロセス



川越市の観光客の属性を把握する

【まちづくりマップ>From-to分析(滞在人口)】

- ✓ 県外からの観光客は、片道2時間以内で来ることができる東京23区民が上位を占めており、川越市の観光は日帰り型が中心である。

川越市の宿泊業の現状を把握する

【産業構造マップ>事業所数、付加価値額】

- ✓ 宿泊業を営む事業所数は減少傾向にあり、付加価値額は県内他自治体に比べ小さい。

宿泊施設の拡充を目指すのではなく、滞在時間の延長やリピーターを獲得する施策を優先して検討する必要がある。

川越市の集客力ある施設を把握する

【観光マップ>目的地分析>目的地検索ランキング(休日、自動車)】

- ✓ 目的地分析において検索上位にある3施設はいずれも目的や注目されている時期が異なる。

季節に応じ集客力がある施設を核とし、周遊性を高めることで効果的な振興策が検討できる。

得られた結論(事業提案)

手ぶらでバーベキュー (川越水上公園)

- 川越水上公園は夏(プール利用)以外の集客に課題
- プール利用が中心と思われる若者・ファミリー世代による夏以外の利用増をめざし、現在公園内で展開しているバーベキュー場を「手ぶらでバーベキュー」というコンセプトで充実させる。

女性向けモチベーションの提案 (氷川神社)

- 氷川神社は冬(初詣)以外の集客や市内の駅からの距離に課題
- 縁結びの名所としての特徴を活かし、氷川会館とのコラボレーション(例:レンタル着物・浴衣の着用によるまち歩き等)により女性をターゲットとしたプロモーションを展開する。

ゴルフ×温泉 (川越GC)

- 川越グリーンクロス(GC)は来訪目的(ゴルフ)が明確であるため、他の施設への周遊に課題
- 周遊の促進による滞在時間の延長を目指し、市内の温泉施設と連携する(相互利用による割引、連絡バスの導入等)。

地域特性を踏まえた人口減少対策

芝浦工業大学「限界集落化のメカニズムの特定」

■ 取組内容

- ・ 芝浦工業大学システム理工学部の学生が、学内の演習発表会のテーマに「限界集落化のメカニズム」を選定し、分析・調査結果を発表した。
- ・ 分析過程で、RESAS の人口マップを活用し将来推計を含む人口推移や増減要因を定量的に捉えた。地域経済循環マップを活用し産業構造分析を行い、若者の就業確保の観点から限界集落化の進行を抑制させる解決策を導いた。

■ RESAS 活用のポイント

- ・ 過去の人口動向（推移、増減要因）のみならず、中長期の将来人口推計を定量かつ視覚的に捉えることができた。
- ・ RESAS による定量分析と現地調査を行うことで、仮説の立案、検証というプロセスを効率的に循環させることができた。
- ・ 芝浦工業大学システム理工学部では、「情報処理」科目で RESAS を必修・選択講義に導入しており、教育現場での活用が期待される。



【システム理工学部 RESAS 講義】



【グループワークによる課題検討】



【現地調査】

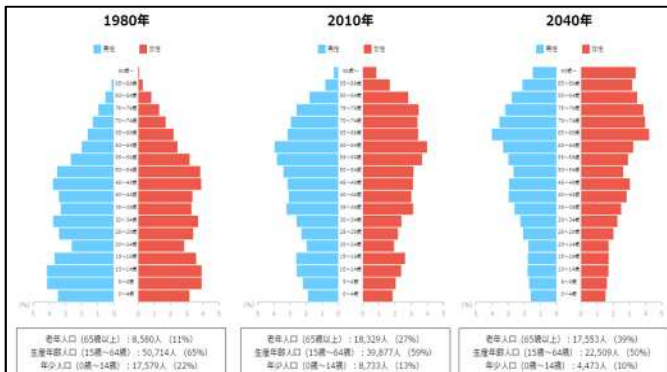
【RESAS 活用メモ】 分析の深掘りに向けた RESAS 以外のデータ活用

RESAS を通じて地域の全体像を俯瞰した後は、その他データも活用し、分析の深掘りをする必要があります。現状・課題把握や施策検討を行うには、現地調査等を通じた地域情報の実態把握や RESAS 以外のデータ活用も有効です。下記のような官庁系オープンデータも参考下さい。

- ・ 地図による小分析「jSTAT マップ」（総務省統計局、統計センター）
（<https://jstatmap.e-stat.go.jp/gis/nstac/>）



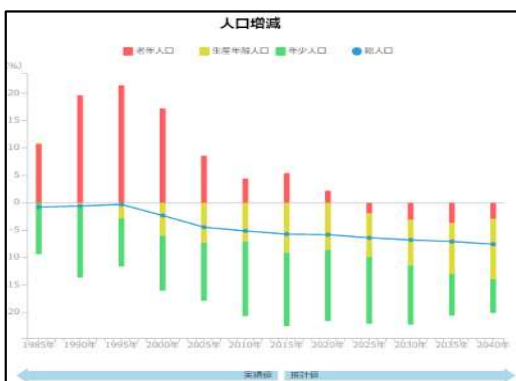
■ RESAS の活用プロセス



秩父市の人口動向を把握する

【人口マップ>人口構成>人口ピラミッド】

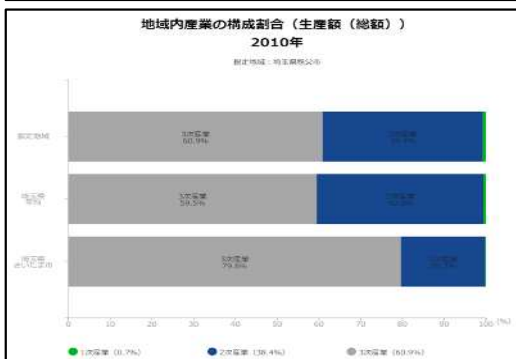
- ✓ 秩父市の人口は老年人口が増加傾向にある。
- ✓ 将来的には限界集落化（老年人口が50%以上の集落）の可能性がある。



秩父市の人口増減要因を把握する

【人口マップ>人口増減>グラフを表示】

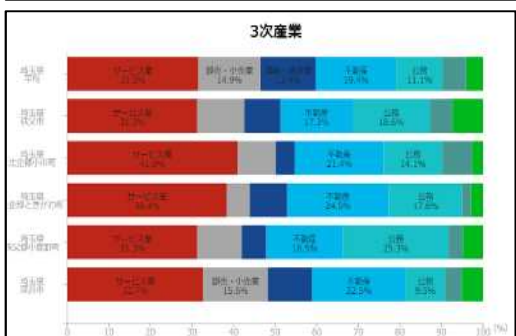
- ✓ 年少人口の減少は1985年から見られ、生産年齢人口は1995年以降に大幅に減少している。
生産年齢人口の減少が、年少人口の減少に拍車をかけていると推察される。



秩父市の産業構造から生産年齢人口が従事している「しごと」を把握する

【地域経済循環マップ>生産分析>地域内産業の構成を見る>構成割合をグラフで見る】

- ✓ 秩父市はさいたま市と比較し、第3次産業の割合が小さい。
生産年齢人口の減少に影響をもたらしていると仮説を立案した。
- ✓ 県平均と比較すると不動産業、運輸通信業の割合が大きい。
通信業やIT産業が生産年齢人口の減少に関係があると仮説を設定した。
さまざまな産業と関係する情報通信産業を活性化させることで、地域経済全体の生産性の向上と雇用創出につながる可能性を検討した。



■ 得られた結論

IT インフラの整備に伴う活用戦略

- サテライトオフィスへの応用
- 学校教育への応用
- イベントのリアルタイム動画配信

4市1町の地域課題発見と振興策の検討

聖学院大学「定住促進に向けて」

■ 取組内容

- ・ 聖学院大学は、県央地域振興センター(鴻巣市、上尾市、桶川市、北本市、伊奈町)と協働で、若者目線で地域活性化策を検討し、『地域の未来を考える政策プロジェクト会議』で発表した。
- ・ 4市1町の分析過程で、RESASの合算機能を活用し、地域単位での特徴や観光資源を把握し、広域連携による地域活性化策の提案につなげた。

■ RESAS 活用のポイント

- ・ RESASの地域合算機能を活用することで、地域全体の傾向や課題を認識することができ、地域単位で地域資源の洗い出しから行政単位を超えた市町連携策検討につなげることができた。
- ・ 今後広域で連携したまちづくりを進める中で、地域単位の分析にRESASは活用できる。



【グループワークによる課題検討】



【4市1町の分析シート】



【県央地域振興センター未来会議】



【定住化に向けてのアイデア提言】

【RESAS 活用メモ】

隣接する地域を合算した分析が可能

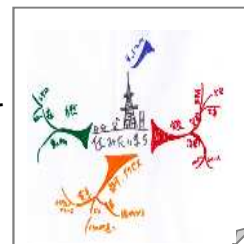


人口マップでは、他の自治体のデータと合算して表示することができます。地域の現状把握や課題検討を進めるにあたり、自治体を越えた広域連携を模索するデータとして活用ができます。

■ RESAS の活用プロセス

1 . 地域の理想像の検討

- ・ 「自分が『こういうまちには住みたい』と思えるまち」について、学生一人ひとりが洗い出し「安心・安全」「快適」「便利」をキーワードとして抽出



2 . 地域の現状把握 (RESAS 活用)

- ・ 学生 2 グループに分かれ、4 市 1 町の人口・観光の特徴に関して、RESAS の各マップの具体的な数値データから地域の現状を**定量的に把握**



3 . 課題の発見、仮説の検討

- ・ 2 . にて**地域の現状が「見える化」**されて得られた新たな疑問や気づきを RESAS で確認 検討を繰り返すことで、現状分析を深化

4 . 課題解決に向けた取組・アイデアの検討

- ・ 4 市 1 町のイベントが同時期に集中するが、各イベントを回る仕組み・集客の情報発信がないことが課題
- ・ 4 市 1 町は十分住みたいと思える環境があるが、魅力が外部に情報発信されていないことが課題

5 . 取組・アイデアの深掘り・具体化

- ・ 若者層を呼び込む「フェス」を開催。会場は地域の各公園を想定し、各公園を回遊するバスを運行
- ・ 免許センター利用者を対象とした、レンタカー・飲食事業の展開。4 市 1 町を周遊するドライブコースを設定

6 . プレゼンテーション

- ・ RESAS 分析結果や、課題解決に向けた取組・アイデアの検討内容を整理し、企画提案資料を作成
- ・ 自治体・行政関係者を対象としたプレゼンテーションを実施

■ 定住促進に向けた提案

6 ックフェス

- ・ 地域の魅力発信を目的とした、4 市 1 町の合同フェスを開催。会場は各市町の公園を想定し、各地の回遊バスを運行する。

免許センターでドライブ GO! GO!

- ・ 定期的に外部者が訪れる「免許センター」を活用。免許センター利用者を対象としたレンタカーサービスや地元産品の紹介・飲食ブースを展開する。

地域産業振興に向けた地域経済把握

商工団体向け研修資料から

■ 取組内容

- ・ 地域経済循環マップを活用して、地域のお金の流れを分析し、地域経済の全体像を把握した。
- ・ 産業マップを活用して、地域経済における各産業の特性を分析し、地域の産業の強みや弱みを把握した。

■ RESAS 活用のポイント

- ・ 地域内外のお金の流入を定量的かつ視覚的に捉えることができた。
- ・ 地域の産業の特性（付加価値をどれだけ生み出しているか、従業者を確保しているか等）を他自治体と比較することにより、地域として今後注力すべき産業の検討を行うことができた。
- ・ 本取組を契機として、データを用いた現状把握の有効性について理解が深まった。

■ RESAS の活用プロセス

地域経済の全体像を把握する（地域経済循環マップ）

分析の流れ

使用する主な機能

ステップ 1

地域経済の全体像と、生産・分配・支出の各段階におけるお金の流出・流入の状況を把握する。

・地域経済循環図
各段階の詳細グラフ 等

ステップ 2

各産業の地域経済への貢献度を量、質、他産業との関係性等の観点から評価する。

・生産分析
地域内産業の構成
影響力・感応度分析 等

ステップ 3

各産業の移輸出入額()から、他地域産業への依存度を把握する。

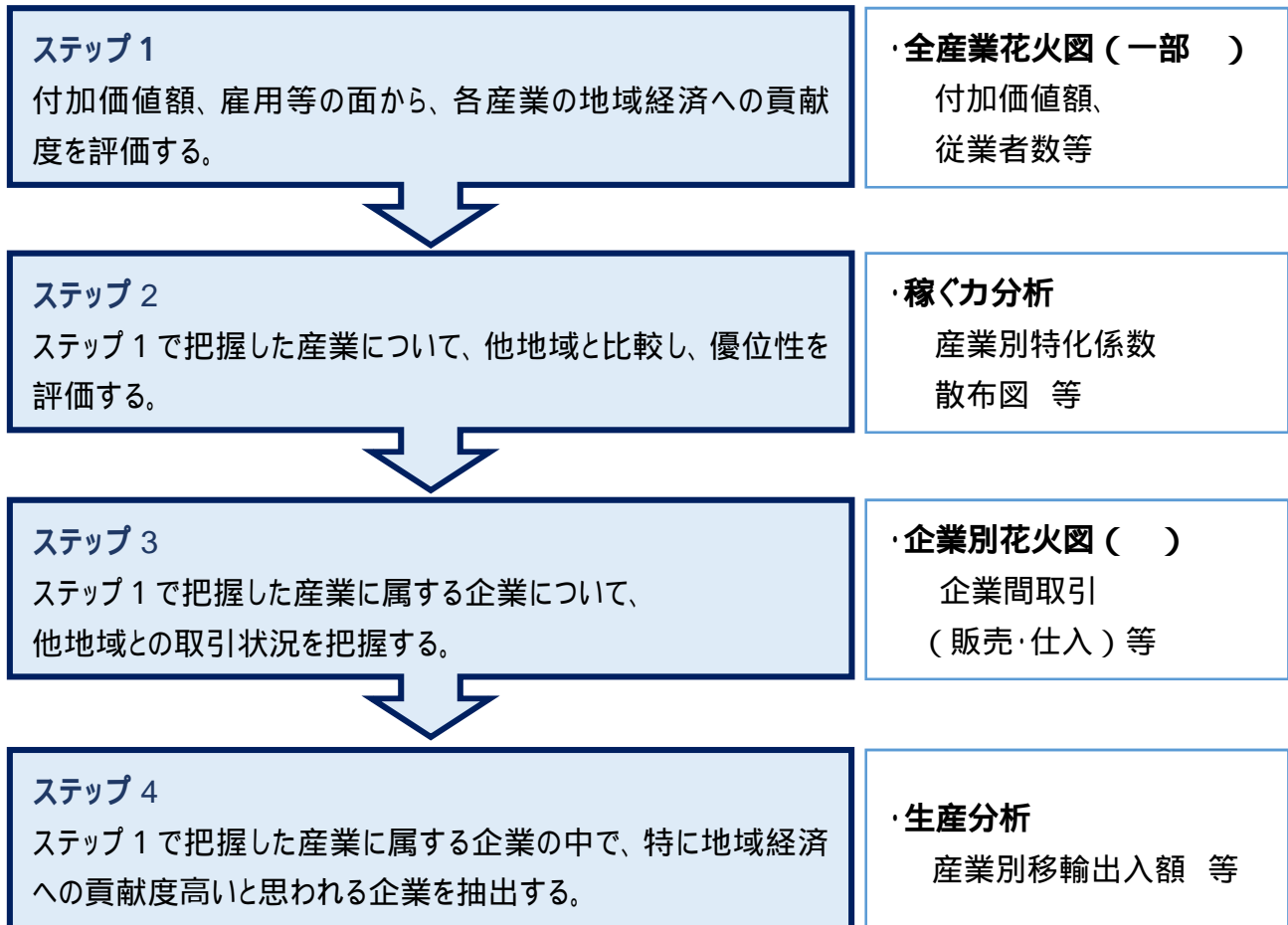
・生産分析
産業別移輸出入額 等

※移輸出入額：域内で生産された商品が域外へ販売されることを移輸出、域外で生産された商品を域内へ購入してこることを移輸入といい、移輸出入額は、その額をさす。

地域にある各産業の現状を把握する（産業構造マップ）

分析の流れ

使用する主な機能



国および地方自治体の職員が一定の制約下で利用可能な「限定メニュー」

■ その他の活用例

地域経済循環マップで地域経済の全体像を把握し、産業構造マップの各データを確認することで、地域産業の特徴を理解し、課題を検討します。

産業構造マップ	製造業	<ul style="list-style-type: none"> 製造業の構造（産業分類別の事業所数、製造品出荷額等）を用いた現状把握 製造業の比較（事業所数、製造品出荷額、付加価値額の時間推移）
	小売・卸売業	<ul style="list-style-type: none"> 商業の構造（産業分類別の事業所数、従業者数、年間商品販売額のデータ） 消費の傾向（民間 POS データ）を用いた県内での購入金額・人数の把握、等
	農業・林業・水産業	<ul style="list-style-type: none"> 農産物販売金額や農地の利用状況、農業関連事業状況を用いた分析、課題検討、等

RESAS×カフェで地域を考える

■ 取組内容

- ・ お茶を飲みながら気軽なスタイルで地域を考える「RESAS Café」を、コミュニティカフェなど日頃から地域の情報共有の場となっている場所で開催した。幅広い層に告知し、ランチタイムには子連れのママが、夜の時間帯にはサラリーマンなどが参加した。
- ・ 参加者からは「RESAS を見ながら他の参加者と地域について話し合う機会となり、とても楽しかった」、「テーマを決めて継続的に取り組みたい」といった意見が寄せられ、地域住民間の情報交換や交流、連携意識を醸成する機会になった。

■ RESAS 活用のポイント

- ・ 難しく聞こえる「ビッグデータを活用した地域分析」も、RESAS では画面操作で地域の状況を視覚的に捉えることができることから、お茶を飲みながら気軽に地域について語り合うことができた。
- ・ まちづくりを考える市民団体や NPO で地域住民の主体性を引き出す手法として、気軽なスタイルで RESAS を活用する動きが広がっている。

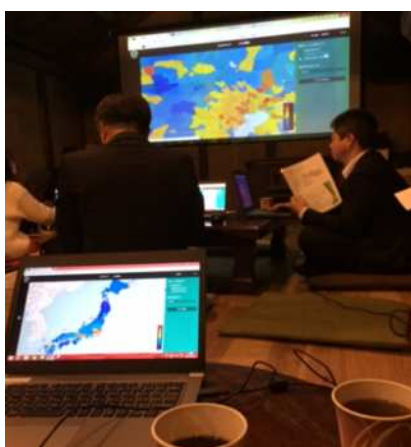
【RESAS Café 本庄】
地域コミュニティカフェ
Café NINOKURA



【RESAS Café 和光】
地域コミュニティカフェ
arcoiris



【RESAS Café 川越】
川越氷川神社 氷川会館



RESAS に関するその他参考情報

RESAS を効果的に活用するため、以下参考情報をあわせて御活用ください。

RESAS に関する最新情報を知りたい時には

RESAS は今後もデータ更新や機能の追加・削除が行われ、本手引きで紹介したデータや機能が変更される可能性があります。最新情報は RESAS トップページ左中央の「START」ボタンから「最新情報」をクリック、開かれるウェブサイト「RESAS ポータル」（後述）を参照下さい。

RESAS トップページ



RESAS の活用事例を知りたい時には

自治体における RESAS を用いた活用事例については、RESAS トップページ右上の「HELP」ボタンをクリックし、「自治体による利活用事例集」に紹介されています。

紹介されている自治体（一部）

北海道帯広市、青森県八戸市、富山県氷見市、三重県、
島根県松江市、香川県琴平町、福岡県うきは市、宮崎県日南市、等



RESAS の操作で困った時や、より詳しい使い方を知りたい時には

RESAS トップページ

RESAS 操作について困った際には、RESAS トップページ右上の「HELP」ボタンから「FAQ」をクリックし参照ください。RESAS に搭載されているデータや各機能に関する詳細な説明については、同じく「HELP」ボタンから「操作マニュアル」をクリックし、該当する機能マニュアルをダウンロードください。



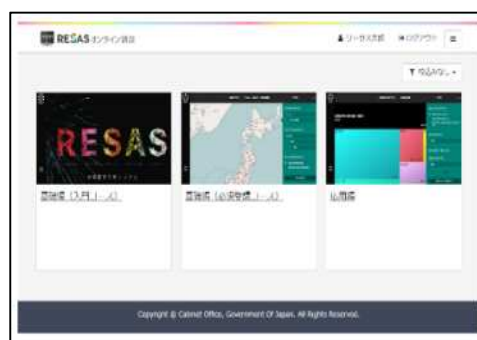
RESAS ポータル URL: <https://resas-portal.go.jp/>

RESAS に関する情報を収集できるサイトです。
RESAS 関連の各種イベント情報や、利用マニュアル等が紹介されています。



RESAS オンライン講座 URL: <https://e-learning.resas-portal.go.jp/lp/>

RESAS の操作方法と活用方法をインターネットに接続されているパソコンやタブレット、スマートフォンを通じて、いつでも誰でも無料で受講できます。
オンライン講座では、動画や実際の操作を通じ RESAS について学ぶことができます。基礎編、応用編があり、学習が終了すると、修了証が発行されます。



RESAS API URL: <https://opendata.resas-portal.go.jp/>

【研究者・技術者向け】
RESAS に含まれる公的データについて、加工しやすい形式でデータを取得できる API (Application Programming Interface) 機能が提供されています。
RESAS に含まれる公的データと、それぞれの地域の独自データ等を複数組み合わせたより高度な分析を行うことができ、最新データを自動で取り込みが可能になります。



RESAS COMMUNITY URL: <https://community.resas-portal.go.jp/user/top>

RESAS を使う中で生じた疑問やアイデアや解決方法など、RESAS 利用者がお互いに情報交換できる掲示板です。



埼玉県

URL : <http://www.pref.saitama.lg.jp/a0102/resas.html>

- 本県が平成28年度に実施した普及事業の概要ならびに研修時に利用したテキストを掲示しています。RESAS 主要マップの分析フローなどをわかりやすくまとめているので、御活用下さい。



関東経産局

URL : http://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/kikaku/index_chiikikeizai.html

- 経済産業省関東経済産業局が作成した RESAS 分析手法例ならびに管内自治体の分析事例等が紹介されています。



